

# リーディングの音読指導とコミュニケーション能力 語りかけ小説 *My naughty little sister*を使用した教材研究より

岡 田 愛

The Teaching of Reading Aloud and its relation to the communication skills:  
Material research based on the use of "*My naughty little sister*".

Ai OKADA

## Abstract

The teaching of "Reading Aloud" used to be regarded as a classic teaching method. However, it attracts considerable attention and people realized this classic method is crucial component to develop their firm foundation of English structure in their brain.

In this paper, I would like to introduce the class based on "Reading Aloud" practice and its application to develop their communicative skills by using "Mode Change" exercise. I developed a material based on the used of "My naughty little sister" for this new challenge. Well-prepared task based activities enabled student to grasp the meaning of the story. Moreover "Reading Aloud Practice" became an excellent bridge for their output activity. Positive feedbacks from students revealed the needs of material development for the further research of teaching of reading aloud.

Key-words: Material Development

## 1 なぜ音読か？

リーディング指導において筆者は必ず音読（コーラスリーディングを含む）を授業内で行い自宅学習でも音読練習をするように学生に勧めている。一見とても古典的な外国語学習とも思える作業であるが、最近人間の脳の構造、働きと言語習得の研究がさかんにもてはやされた影響もあり再び注目されるようになってきた。

『英会話ぜったい音読CDブック』の著者である国弘正雄氏によると“母語でインプットとして取り入れた言語はヴェルニッケ中枢に入り、ここで理解され、もう一つのブローカー中枢にて言語を能動的にアウトプットし使

うことを担当する。この二つの中枢の間でのインターアクション（相互関係）を頻繁に引き起こしてゆけば、言葉が知識となって内在化され受身だけでなく能動的に使われる知識となって身につく内在化（Internalize）する。母語を習得する時には意識しなくても自然に機能するが外国語を学ぶ時は自然に働いてくれない。その為にこのような循環が繰り返し行われる環境を人為的に作り出してやる必要がある。”<sup>1</sup>と母語と外国語の習得の仕組みの違いを述べている。ここで国弘氏の推薦する、外国語習得の為に人為的な環境とは只管朗読と只管筆者である。これは意味を理解した文章（中学校の教科書レベル）の音読と筆写を繰り返し練習し身体に刷り込み内在化する

1 国弘正雄著、『英会話絶対音読CDブック』、講談社パワーブックイングリッシュ、(2000年)、14頁－15頁。

ことである。

トロイの遺跡を発掘したドイツ人の考古学者であるシュリーマンは音読により文章を丸暗記することにより多国語を理解したということでも有名である。また彼は、英語を学ぶために英国国教会に通い、牧師の説教をよく聞き、口真似をして覚えたそうである。音読によるシャドウイング方法である。

私自身、中学高校時代は意味内容をしっかりと把握したリーダーの教科書を常に音読、暗唱、筆写するという作業を繰り返したことにより、何年もたった今でも、教科書の内容をしっかりと覚えている。実際に英語を話す時は内在化されたかつて暗唱した英文をそのまま使ったり、内容に応じて単語を変えたりしながら引き出しから出してくるのである。

なぜ音読がこのように外国語学習に有効的なのであろうか。日本語を母語としている私達は言うまでもなく、日本語の音韻、統語、語彙、そして日本語によるコミュニケーションのルールを身につけているが外国語としての英語となると、無意識状態の習得ではなく意識下における学習になる為に莫大な時間を学習に費やさなければいけなくなる。第二言語としての英語の音韻、統語、語彙の体系を学生達の脳に刻み付ける方法として音読こそが再度見直されるべき分野であると私は信じている。

『音読指導』の著者である土屋澄男氏は第二言語としての英語を指導する上での音読の利点を以下のように述べている<sup>2</sup>。

- 1 音読は通常意味を理解した文章について行う為、英語の音韻、文構造についてあらゆる知識を動員する。
- 2 チャンク（意味的にまとまっている語句の固まり）をなす語句の意味と内部構造について多くの知識を動員する。チャンクは名詞句、動詞句、前置詞句、形容詞句、副詞句などの文法的機能を備えて

いるため、それらの意味を正確に理解するには文章の内部構造を理解している必要がある。

こういった利点からみてわかるように、しっかりと意味内容を理解した文章を音読による反復練習をする事によって脳に刻みこまれたフレーズが表現したい時に口から出てきたり、必要に応じて単語を入れ替えることができるようになるのである。

本来外国語を学ぶということの目的はコミュニケーションの為である。話せるようになる事である。音読がスピーキング力、コミュニケーション力向上につながるツールになる為の教材研究を綿密に行った。

## 2 音読指導を組み込んだ授業

英語の授業における音読とはこれまで述べてきたようにしっかりとテキストの内容をすることが前提条件である。その為に実際の音読練習の前にテキストの黙読やテキストの解説などといった指導が必要とされるが、筆者はここにまず第一に日本語和訳を先に手渡しするといった方法をとった。和訳を先渡しする授業とは2001年の全英連高知大会で高校教員の研究グループに発表され反響を呼んだ授業方法である。この授業方法の詳しい取り組みについては『和訳先渡し授業の試み』<sup>3</sup>にて報告されている。筆者はこの先行研究の授業手順、組み立てを参考にしながら、工夫と修正を加えた。独自にイギリスの児童向けの語りかけ小説の代表格である“**My naughty little sister**”を教材として使用した。

和訳先渡しをする授業では英文の内容理解に費やす時間を最小にする。英語習熟度と学習意欲が比較的低い学生が多い為に、英文だけを見た場合、学生の情意フィルターが一番上まで上がってしまう可能性が高い。少しでも学生のフィルターを下げるための効果もあると期待しているのである。その際、A3を縦にしたハンドアウトの上部に和訳、下部に英文を載せ、和訳と英文を一度に

2 土屋澄男著、『音読指導』、研究社、(2004年)、11頁、15頁。

3 金谷憲・高知県高校授業研究プロジェクトチーム共著、『和訳先渡し授業の試み』、三省堂、(2004年)。

目を通せる状態にした。表に和訳、裏に英文だといちいちそのつどハンドアウトを返さなくてはならないという面倒な作業が加わる為、あえて気になる箇所はすぐに和訳で確認できるように見やすい状態にした。

#### 授業の目標

- ①和訳先渡しをすることにより英文に対する苦手意識を減らす。
  - ②英文を何度も読むことで（黙読＋音読）英文に触れる絶対量を多くする。（インプット＋インテイク）
  - ③英語を使った活動をするにより頭に残る英語量を多くする。（インテイク）
  - ④さまざまな活動を通して学んだ英語を自力で使えるようにする。（アウトプット）
- ①から④の活動はすべてペア、グループワークで行うことにより、答え合わせや発表の時に恥をかいったりしないようにする。また他者とのインターアクションによりより創造的な考えへ発展する体験を英語でさせる。

#### 授業の手順

学生には三枚のハンドアウトを配布する。

- A ボキャブラリーリスト
- B リーディング教材の和訳英文を上下に印刷したもの。
- C タスク

- ① プリアクティビティ  
ここでは英文の内容に関する質問をする。教師は指示を含め、すべてを英語で行い学生には英語で考えさせる。学生が質問を聞き取れない場合は質問を黒板に書く。この際、和訳を読んでもよい。
- ② ボキャブラリーリストには本文理解のために必要な語彙を掲載しておく。それらの英語の定義を書いたものを線でつなげる作業をさせ語彙の意味を本文の内容から想像させる。答えあわせの後、教師の後ろについて発音練習をする。
- ③ 三つ程度の内容に関する質問をする。学生はその質

問の答えが含まれる英文に線を引く。

- ④ 英文に十個程度の空欄を作り前後の内容から空欄に当てはまる英単語を考えさせる。この際も和訳を参照してもよい。空欄の答え合わせは付属のオーディオCDで行う。

このようにしてリスニングも加えながら英文の内容を掴んだ後、インテイクの作業に入る。

- ⑤ 音読  
インプットした情報を自らの知識としてインテイクする為の作業としてかせないのが音読である。初めにオーディオCDを流しネイティブの発音を聞かせる。そしてチャンツにスラッシュを入れさせて意味を意識させながらコーラスリーディングをする。この時、使用した教材の英文にふさわしい読み方、感情移入をしやすくする為にペア音読を入れる。一人が一文を日本語で読んだら、もう一人がその箇所を英文で読み、両者とも感情移入がしっかりできていたかを確認しあう。この音読練習ではとにかく読込ませ英文を頭に染込ませる。学生には意味を考えながら声に出すという重要性を教える。意味を考えることは相手に寄り添うことであり感情移入をしやすくする為にペアワークをしていることも認識させる。

- ⑥ アウトプットについて  
これまでのインプット、インテイクしてきた情報を自らの英語としてコミュニケーション目的で使えるようにする為に創造的な活動を英語で行う。これに関しては次の章で詳しく述べる。

### 3 音読からコミュニケーション力向上へ

コミュニケーション能力の定義としてよく知られているものにカナレーとスウェイン(Canale and Swain,1980)の研究結果がよく知られている。彼らの研究では以下の四点をコミュニケーション能力として挙げている。それらは、①文法的能力 ②社会言語学的能力 ③談話力的能力 ④方略的能力である。①の文法的能力とはミュニ

ケーションの為の基本的な能力であり、この能力がないと母語であろうと外国語であろうと当然のこととして獲得していなければならない能力であり、学校の授業で身につく分野である。しかし②から④はどうであろうか。土屋氏は『音読指導』の中で言語の学習には経験が必要だと述べている。授業内でのアウトプットの活動は可能だが、どんなに工夫しても擬似的なコミュニケーション活動しかならず、本物のコミュニケーションにはなにくいと述べている<sup>4</sup>。これにはおおきく同意せざるを得ない。カナレーとスェインの挙げた②から④の能力も学習というよりは個々の経験を通して獲得すべきものであろう。それではどのようにしたらよいのだろうか。本来外国語学習には行動主義理論を基礎とした反復練習（音読、筆写などの）を必要とする部分と、チョムスキーの普遍文法に見られるような創造性を発揮すべき部分の二面性がある。母語習得においてはチョムスキーが唱える普遍文法により創造性という可能性で無意識のまま習得できるのかもしれないが、臨界期を過ぎた外国語学習においては、言語使用の創造性を発揮する前に、学習者はまず反復練習により言語の基本的な規則をインプットし、インテイクし、自然と自分の言葉として出てくるまで反復練習することが大事だと思われる。自分の言葉としてコミュニケーションの為のアウトプット練習として私は近江誠氏が提唱するオーラル・インタープリテーションメソッド<sup>5</sup>が有効で、その効用をじっくりと学生に説明しながら進めてゆくのに最適であると考えている。このオーラル・インタープリテーションメソッドとはまさに音読を基礎とした反復練習で、コミュニケーションで創造性に富んだ発話への手助けをする大きな基礎固めだと信じている。

オーラル・インタープリテーションメソッドとは

このオーラル・インタープリテーションメソッドとは、英文の内容を声で表現するための英語音声の運用能力（強勢、イントネーション、区切りなどのチャンツ）の定着を図ることから始まり、英文を音読によって聞き手に

正確にとどけるという言語活動を通して声や言葉の力を再確認することが中心課題となる。ペアワークやグループワークを多く取り入れ、クラス全体で学び、英語を話す雰囲気をつくることを目標としている。英文を声に出して読む際に以下の『7つのポイント』に注意することとなる。

- ① どんな人（Who）が語っているのか。
- ② 誰に（to whom）語っているのか。
- ③ 語り手はどんなときに（When）語っているのか。
- ④ どんな場所で（Where）語っているのか。
- ⑤ 何の目的（Why）で語っているのか。
- ⑥ 語り手はどういう内容の話を（What）しようとしているのか。
- ⑦ 語り手はどう（How）語ろうとしているのか。

これら7つのポイントに気をつけて読むことにより英文内容をしっかりと理解し、その登場人物になりきって音読、暗唱することができる。英文を何度も読み込み、暗唱することにより様々な文型、表現力が体に染み込み、やがて自分の発話として場面に応じてしようにできることができるようになる。反復練習によって覚えた英文を、コミュニケーションで創造性に富んだ発話へ応用させるさらなる訓練として近江誠氏は『モード転換』エクセサイズを行っている。『モード転換』エクセサイズとは英文を上記の点に気をつけながら読み込んだ後、英文の内容を自分の状況に当てはめてより感情移入をしやすい状況でスピーチを発展させる方法である。筆者はアウトプットステージにこの方法を採用した。

実際の授業にて

筆者は使用する英文教材の選択基準として次の点を以下の点を留意した。

- ① 英文が難しすぎず、中学校3年くらいまでの文法事項をカバーしている英文。
- ② 感情移入がしやすいような語りかけタイプの英文。
- ③ 内容が楽しく、学生の興味関心を引けそうな英文。

4 土屋澄男著、前掲書、151頁。

5 近江誠著、『感動する英語！』、文藝春秋、(2003年)、9頁を参照のこと。

考慮した結果、イギリスの公共放送BBCのラジオでも朗読小説として使用され、大きな反響を呼んだと言われる児童向け語りかけ小説の『きかんぼのちっちゃいいもうと』(原題 *My naughty little sister*) を使用することにした<sup>5</sup>。この小説は年少の姉がさらに年少のきかんぼの妹について読者に語りかける形になっている。英文も易しいので音読、その後のモード転換作業には最適であった。今年初めて取り組む授業であったが、筆者は医療英語を教える看護学校にてこの教材を使用することにした。看護学校の学生は一クラス四十人ほどであるが、その半数以上が一度大学を卒業し、社会に出てから手に職をつけるために来た学生や主婦であった為に、授業内で行われるペアワークやグループワーク活動にて高卒で入学してきた現役の学生を積極的にひっぱってゆくのである。初めて取り組む教材には最適のクラスであると思われる。

数あるお話の中でも、筆者は近い将来看護の道へ進む学生に適したお話として"**When my Naughty Little Sister wasn't well**" (病気になった時) を教材として選択した。病気になった小さい子の気持ちを描写した物語を学生達は意欲的に取り組んでくれた。元来この小説は児童文学である為、話の内容もパターン化された表現が多く、話しの展開を予想させるような期待感を与えてくる英文である<sup>6</sup>。

#### 学生からのフィードバック

この教材にて5回授業を行った後、アンケートにて感想を聞いた。以下が代表的な感想であった。

- \* 日本語訳を読んでから英文に触れたので英語に対する抵抗感がなかった。少し自信が持てた。
- \* お医者さんを怖がる妹の様子が可愛くて、英語でもその気持ちが伝わってきたのでもしも英語を話す子供が将来患者として来て同じような状況に遭遇した時はお話の内容のように英語で対応してあげたいと思った。

- \* オーディオCDでのリスニングが楽しかった。日本語訳で空欄を確認していたので、当てはまる英語が予測できたので正解だったとき、嬉しかった。
- \* ペアワークにて音読、暗唱練習をたくさんしたので、モード転換にて自分の立場で置き換えた時、英文がすらすらと出てきたのには驚いた。
- \* グループワークにてその後を展開を考えてストーリーテリングしたのが楽しかった。お話の続きを英語で考えるのは大変だが、グループだったのでいろいろな意見が出てきて楽しかった。

以上のような肯定的な感想が出てきた。今後の課題としては学生の習熟度、学習目標にあった教材研究を心がけ、音読、暗唱による反復練習から、より創造的でコミュニケーション的な発話につながるようなアウトプット活動の研究を重点的に行ってゆきたいと思う。

5 実際の授業ではドロシー・エドワード著、渡辺茂男訳、『きかんぼのちっちゃいいもうと』、福音館 (1978)、35頁-48頁と、その原文-Edwards, Dorothy. *My Naughty Little Sister*, (London, Methuen Children's books Ltd, 1952), pp18-26を使用した。

6 詳しい教材に関してはAppendix参照のこと。

## 資料1 和訳（一部）＊子供向けのお話の為、ひらがなが多用されています。

びょうきになったとき

みなさんは、はずかしがりやじゃないでしょうね。わたしのちいちゃいいもうとは、ほんとうははずかしがりやではなのに、よくはずかしがりやのふりをしたものです。やさしいおばさんやおじさんがわたしたちにあいにくると、いもうとは“こんにちは！”ともいおうとしないし、あくしゅもおじぎもしようとはしませんでした。そればかりか、おばさんやおじさんがはなしかけようとするとにわへにげだして、おばさんたちがかえるまですぐりのしげみにかくれたりしたものです。けれどもきかんぼのちいちゃいいもうとは、じぶんがおしゃべりしたいときはぺちゃくちゃおしゃべりしました。いもうとはぎゅうにゅうやさんや、パンやさんやせきたんやさんや、まどふきやさんやごようききにやってくるそのほかの人たちとはいつでもおしゃべりをしました。こんな人たちがやってくると、おしごとのじゃまになるほどぺちゃくちゃとおしゃべりしました。でもこの人たちはみんなきかんぼのちいちゃいいもうとがすきでした。ある日など、いもうとはぎゅうにゅうやさんのぎゅうにゅうびんをぜんぶたおしてしまったのに、ぎゅうにゅうやさんは“おじょうちゃん、なかなかってもいいんだよ。ないたって、こぼれたぎゅうにゅうはびんにもどりゃしないんだから”とたったけでした。またべつの日には、せきたんやさんが、ちかしつにせきたんを入れようとしたそのとたん、いもうとは地下室のふたをしめてしまいました。でもせきたんやさんは“あれあれ、おじょうちゃん、あんたのパパのしごとをふやしたね！”とたったけでした。またべつのひには、いもうとはまどふきやさんのあとについてはしごをのぼりました。そしてこんどはおりるのがこわくてなきました。けれどもまどふきやさんは“ありゃありゃ！おちびちゃん、なくんじゃないよ”といってまどふきのうすいかわのようなものをかしてくれました。いもうとはそれでなみだをふきました。

## 資料2 英文（一部）

When my naughty little sister wasn't well

I hope you aren't a \_\_\_\_\_ child. My naughty little sister wasn't shy, but she used to pretend to be sometimes, and when nice aunts and uncles came to see us, she wouldn't say, "How do you do!" or \_\_\_\_\_ or anything, and if they tried to talk to her she wouldn't run off down the garden and hide among the currant bushes until they \_\_\_\_\_. But my naughty little sister talked and talked when she wanted to. She talked to the milkman and the baker and the coalman and the window-cleaner man, and all the other people who came to the door, and when they came she got terribly in their way, because she talked to them so much, but they all liked my naughty little sister. One day she upset all the milkman's bottles, and he only said, "Never mind, no use crying over spilt milk" and another day she shut the cellar up just as the coalman was going to tip the coal in, and he only said, "Well, well now, there 's a job for your father!" and she climbed up the ladder after the window-cleaning man and then she cried because she wa\_\_\_\_ to come down, but he only said, "There! There! Don't cry, dearie! And he lent her his leathery thing to wipe her \_\_\_\_\_ on.

### 資料3 ボキャブラリーリスト

本文中に出てくる単語を左側の定義と結びなさい。

- |          |  |
|----------|--|
| ①naughty | ア person whose job is to bake and sell bread                                 |
| ②nasty   | イ nervous and uncomfortable in the company of other people                   |
| ③baker   | ウ behave badly or do not so what they are told                               |
| ④shy     | エ hard black substances that is extracted from the ground and burned as fuel |
| ⑤coal    | オ very unpleasant to see, experience, or feel                                |

### 資料3 授業内タスク (一部)

Task1 英文の中から答えを見つけよう。答えを含む英文にアンダーラインを引きなさい。

- ① 何人の人達が妹に会いに来ましたか？
- ② なぜ妹はお医者さんに会いたくないのですか？
- ③ 妹はお医者さんの何を見たかったのですか？

#### Task2

リスニング問題です。始めに空欄の単語を前後の意味から判断して何がはいるか考えてみよう。答えはオーディオCDのリスニングで確認します。

#### Task3

モードチェンジです。妹のことをあなたならどのように説得しますか？お医者さん嫌いの子供の立場になって考えてみよう。グループで発表しなさい。